

1. 研究課題名： 「優しい介護」インタラクションの計算的・脳科学的解明

2. 研究代表者： 中澤 篤志（京都大学大学院情報学研究科 准教授）

### 3. 中間評価結果

本研究は、「優しい介護：ユマニチュード」のケア技術を解明し実践的に適用することを目指している。ウェアラブルセンサや環境センサなどでケアスキルをマルチモーダル計測して、計算論的に解析し、介護スキルを定量評価し、エキスパートの一部ケア技術を特定した。また、ケアスキルの学習システムの開発を進めて、看護師・介護師のみならず、救急隊員、ホーム介護者など、300人強への教育セミナーを実施し、優しい介護スキルの教育プログラムの実証実績を上げている。

「見る・話す・触れる・立たせる」の4つの重要スキルにおいて、エキスパートに要求されるスキルレベルを科学的に分析している点は顕著な成果であり、認知症患者とのコミュニケーション原理の理解に大いに貢献し、科学技術上のインパクトは高い。また、そのための各種デバイス、アプリの開発も進展があり、認知症高齢者のみならず、多方面へのコミュニケーション支援分野への応用が期待できる。社会的ニーズに直接応答する本プロジェクトは、44件の招待講演と、24件の報道発表の実績があり、アカデミア、社会からの注目度は非常に高い。学術・政策提言にも引用されるなど注目を浴びており、科学技術イノベーションへの大きな寄与が期待できる。コロナ禍で介護技術の新しいパラダイムを拓き、より優しい介護技術の研究開発とその現場への実践的適用に期待する。